

大和証券グループ津波復興基金 ～津波発生から4年が経過して～

大和証券グループは、2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震・インド洋津波の被災地の復興支援として、2005年3月9日に「大和証券グループ津波復興基金」を設立、継続的に支援を行っています。



2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震とインド洋津波に際して、被災地の復興策として「大和証券グループ津波復興基金」を設けました。これは、2005年度から10年間にわたり、毎年1,000万円、総額1億円を拠出する長期的な支援です。

公益信託アジア・コミュニティ・トラスト(ACT)内に「大和証券グループ津波復興基金」を設立し、インドネシア、スリランカ、インドの被災3カ国で、「子どもの心のケア」「マイクロファイナンスの活用」「子どもに対する教育機会の提供」の3分野で支援活動を行う現地NGOに助成金を提供。プログラムの選定や活動状況のモニタリングはACT事務局を務めるアジア・コミュニティ・センター21(ACC21)が、また、資金管理は住友信託銀行が、それぞれ専門性を活かして担当しています。

この基金は、一過性の義援金ではなく長期の復興支援策であること、公益信託やマイクロファイナンスなど、金融システムを活かした支援であること、ACC21が行うモニタリングによって詳細な活動状況を把握できることが大きな特徴です。



Indonesia—アチェ・ブサール

子どもの心のケア

インドネシアでは、現地NGO「インドネシア家族計画協会（IPPAアチェ支部）」が、津波のトラウマが原因と思われる言語障害や極度の情緒不安定などの症状を抱える子どもたちに対して、医療処置と経過観察を行っています。ここでは、村の住民のなかから募ったボランティアに子どものケアの方法を教え、村のなかで自立的に子どものケアができる体制を整えています。



Sri Lanka—ゴール

女性のためのスキルトレーニングとマイクロファイナンス

スリランカでは、現地NGO「ウィルポタ女性貯蓄運動」によって、女性の被災者が自分自身で収入を確保するためのスキルトレーニングと、事業に必要な資材を購入するためのマイクロファイナンスが行われています。女性たちは、貯蓄の仕組みから商品の製造方法、販売、簿記などを学び、縫製をするためのミシンの購入費用や、電話レンタル事業を始めるための回線費用などの融資を受けています。ここでは、小さいながらも金融の仕組みが復興支援の手段として活用されています。



India—ナガパッティナム

障がいを持つ若者の職業訓練

インドでは、現地NGO「社会サービス養蚕プロジェクト・トラスト（SSSPT）」によって、障がい者というもっとも支援を必要とされる被災者を対象に、持続的な生計手段を得るための職業トレーニングが行われています。参加者は、衣服の縫製やジュート製かばんの製造、ろうそく作り、パソコンを用いた書類作成などの技術訓練を行い、自立していくことを目指しています。

大和証券グループの企業市民活動

① 経済・金融分野での教育・研究活動

p.22をご参照ください。

② ボランティア活動を役職員に広めるための活動

手話教室や高尾山での自然体験学習などを開催しています。また、2007年度より社長賞にボランティア表彰を設け、役職員の啓発に努めています。

③ 文化・芸術事業への協賛活動

「ルノワール・ルノワール展」「大和証券グループ presents パリ国立オペラ初来日公演」「第2回大和証券杯ネット囲碁グランドチャンピオン戦」「第2回大和証券杯ネット将棋・最強戦」などに、特別協賛を行っています。

④ 財団・NPOを通じた地域社会・国際社会への助成活動

大和証券福祉財団・大和証券ヘルス財団・大和日英基金

災害復興支援活動

ダイワJFS・青少年サステナビリティ・カレッジ(p.22をご参照ください。)

「ダイワSRIファンド」助成プログラム

ダイワCI生物多様性保全基金

ダイワ・ラッセル・GEFアジア環境技術普及支援プロジェクト

※①～④の活動の詳細は、2009年8月末にウェブサイトにて公開予定です。